

久野知美さんと行く

# ユーレイルパスで巡る 「欧洲の絶景と世界遺産」

フリーアナウンサーの久野知美さんは大の鉄道ファン。欧洲4カ国の絶景と世界遺産を巡るに旅に出た。チケットはヨーロッパ31カ国有効のユーレイルパス。今回はスイス「氷河特急」の旅。

櫻井 寛=写真・文  
Photo & Text: Kan Sakurai

グレッシャー・エクスプレス  
レー・ティッシュ鉄道 (RhB)  
マッターホルン・ゴッタルド鉄道 (MGB)

◎ヨーロッパ31カ国的主要鉄道を自由自在に乗り降りできる鉄道周遊券といえば「ユーレイルパス」。多種多彩なタイプがあるが、今回利用した「ユーライグルーバルパス」は2ヵ月間の内、任意の10日間有効で1等€531(約63,720円)。シニア(60歳以上)割引きの場合は10%オフ。購入はヨーロッパ出発前に日本の旅行代理店へ。なお、「氷河特急」は乗車券のみ有効で、別途指定料金が必要となる。取材協力:ユーライグループ <https://www.eurail.com/>  
スイス政府観光局 <https://www.myswitzerland.com/ja/experiences/glacier-express/>



ヨーロッパ31カ国的主要鉄道を自由自在に乗車できる鉄道周遊券「ユーライグルーバルパス」を利用し、トモミンこと鉄道大好きブリトニアウンサーの久野知美さんと巡るヨーロッパ鉄道旅行。その第3回はスイス編。ドイツのフツセン駅から列車を乗り継いでスイスのサンモリツ駅に到着。冬季オリンピックを2度開催したウインタースポーツ・リゾートで1泊した翌朝、スイスで最も有名な急行列車であり、世界でも10指に数えられる人気列車「氷河特急(グレッシャー・エクスプレス)」に乗車した。

「氷河特急」の運行は今から90年も前の1930年からだが、昨年、新型車両「エクセル・クラスク」が登場。それまでは1等、2等

ブラウンスイス牛が窓く草原を行く「氷河特急」。標高2000m超のオーバーアルプ峠にて



Kan Sakurai  
旅と鉄道をこよなく愛するフォトジャーナリスト。これまでに80カ国以上の鉄道に乗車。1993年には、88日間かけ、航空機を使わず陸路・海路のみでの世界一周に成功。現在も年間250日以上を世界のどこかで乗り物に乗って過ごしている。鉄道関連の著書多数。



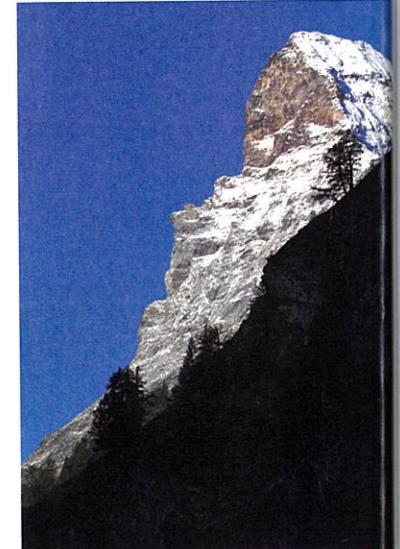
右／3両先のキッチンカーよりエクセレンスクラスにランチをデリバリーするスザンナ。中上／メインディッシュのスイス産ビーフのフィレとトリュフ入りマッシュドポテト添え。中下／ピュントナー産マウンテンチーズ、ヴィアマラ産ムッシュチーズ、ラングヴィース産オーガニック羊チーズなどの盛り合わせ。左上：エクセレンスクラスに大満足のトモミ

スイスの鉄道旅  
を楽しむともみん

はれ予報  
Channel



右／時計台が印象的なサンモリツ駅にて出発を待つ「氷河特急」。赤い機関車の次がエクセレンスクラス。  
上／古いレールを見事に再利用したサンモリツ駅の世界遺産のモニュメント



上／終着駅ツェルマットのプラットホームから仰ぐマッターホルン(4478m)。左／ブニャイ橋を通過する「氷河特急」。左から機関車、2等車2両、キッチン＆バー車1両、1等車2両、エクセレンスクラス1両の6両編成である

「まあ、ステキな車内！　氷河特急には数年前に乗車し、とても快適でしたが、エクセレンスクラスはより素晴らしいですね！」

コンシエルジエに促され指定席に着席すると、窓辺にセットされたiPadが目に入つた。うれしいことに日本語対応である。時刻表、沿線案内、ランチのメニュー、ワインなどドリンクの紹介が日本語で表示されている。これは心強い。お酒といえば、エクセレンスクラス専用の「グレッシャー・バー」があり、信州の名酒「真澄」があるではないか。世界広しといえども、日本酒のある列車は他にないので?

やがて9時15分の発車時刻となり「氷河特急」は、サン・モリツ駅をスタートした。この先、7つの谷、291の鉄橋、91本のトンネルを抜け、280km先のツェルマットへと至る8時間の旅の始まりである。

発車と一緒にコンシエルジエより、まずはウエルカム・シャンパンと前菜の盛り合わせ、アペロプレートがサーブされた。内容はタルタルのタルトレット、ミニ・チーズケーキ、フレッシュチーズとキュウリのタルトレット、スペシャー・ミックスナッツである。イスだけにチーズが美味しい。

それらを味わいながら車窓風景にカメラを向けていると、コンシエルジエが「写真を撮るなら窓が開きますよ」と教えてくれた。これまでの氷河特急の窓は1、2等とも固定だったが、新型エクセレンスクラスはデッキの窓が開けられるのだ。

サン・モリツを発車しておよそ1時間後の11時35分、「氷河特急」はトンネルを抜けた直後、高さ65mのランドヴァッサー橋に差しかかった。世界遺産「レー・ティッシュ鉄道アルブ線／ベルニナ線と周辺の景観」のシンボルにもなっている有名なアーチ橋だが、もちろんデッキの窓を開けて撮影できた。

その間に食事のサービスは続く。前菜からデザートまで七つの皿からなる「セブンス・ブレート・ランチ」である。全メニューはともに紹介しきれないが、とりわけ感動したのは、12時半頃、ディゼンティス駅付近で供された「アルプス高原植物のドライフラワー入りグリーンピースとミントのスープ」。

ポットからスープが注がれると、スープ皿は緑の牧草地と化し、高原植物が花を咲かせるのである。折しも車窓には緑なす牧場が広がり、牛や羊がのんびり草を食む。頭上には白銀に輝くアルプスの高峰。スイスの絶景を眺めながらの美味、美酒は最高である。

やがて17時10分、車窓に秀峰マッターホルンが姿を見せる。新婚旅行でぜひ乗りたいわ！」

「まさにエクセレント！　満足の上をゆく満足でした。新婚旅行でぜひ乗りたいわ！」

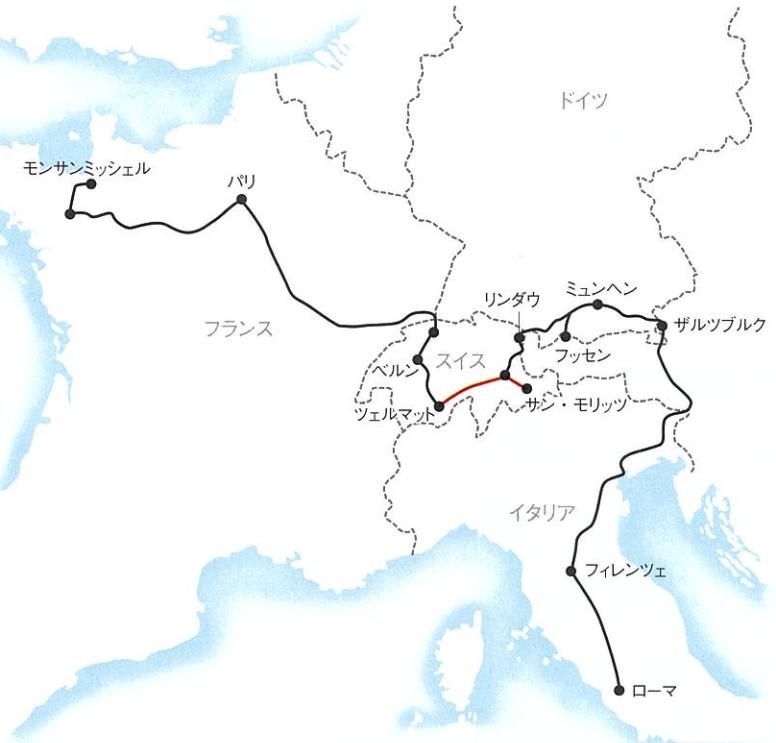
あ、その前に、花婿募集集中です！（笑）」



右／車内で提供される日本酒「真澄」。左／アルプス高原植物のドライフラワー入りグリーンピースとミントのスープのおいしさに大感激のトモミと、コンシェルジュのスザンナ。「エクセレンスクラスのランチは格別です！」

Tomomi Kuno

ホリプロ所属の女子鉄アナウンサー。テレビ・ラジオの鉄道関連番組出番多数。関東私鉄の車内自動アナウンス担当。テレビ東京「なないろ日和!」、NHKラジオ第1「鉄旅・音旅出発進行!」などに出演中。11月に3冊目の書籍「京急とファン大研究読本」をリリース。世界遺産検定2級。



の2クラスだったが、その上に、いわば特等が誕生したというわけだ。さすが特等だけあって、レッドカーペットを踏んでエクセレンスクラスの車内へと入る。するとそこは、通路を挟んで1+1、それも白い革張り電動リクライニングシートが20脚のみというゴージャスな空間が広がっていた。乗車と同時にトモミ

ンが感動の声をもらす。

「わあ、ステキな車内！　氷河特急には数年前に乗車し、とても快適でしたが、エクセレンスクラスはより素晴らしいですね！」

コンシエルジエに促され指定席に着席すると、窓辺にセットされたiPadが目に入つた。うれしいことに日本語対応である。時刻表、沿線案内、ランチのメニュー、ワインなどドリンクの紹介が日本語で表示されている。これは心強い。お酒といえば、エクセレンスクラス専用の「グレッシャー・バー」があり、信州の名酒「真澄」があるではないか。世界広しといえども、日本酒のある列車は他にないので?

やがて9時15分の発車時刻となり「氷河特急」は、サン・モリツ駅をスタートした。この先、7つの谷、291の鉄橋、91本のトンネルを抜け、280km先のツェルマットへと至る8時間の旅の始まりである。

発車と一緒にコンシエルジエより、まずはウエルカム・シャンパンと前菜の盛り合わせ、アペロプレートがサーブされた。内容はタルタルのタルトレット、ミニ・チーズケーキ、フレッシュチーズとキュウリのタルトレット、スペシャー・ミックスナッツである。イスだけにチーズが美味しい。